

令和7年度第3回三鷹市子ども・子育て会議 会議録（要旨）

1 日時	令和8年2月16日（月）午後6時30分～午後8時00分
2 会場	生涯学習センター ホール
3 議題	<p>1 協議事項 子ども誰でも通園事業実施に係る事項について</p> <p>2 報告事項 (1)子ども・子育て会議の所掌事項について (2)子ども政策部の組織改正について (3)5歳児健康診査の実施について (4)三鷹市子どもの居場所に関する基本方針について (5)令和8年度保育施設の利用定員について (6)物価高対応子育て応援手当について (7)その他</p>
4 出席委員 (18名)	<p>山本 真実（会長）</p> <p>井口 真美 段谷 ゆり子 三隅 みどり 六車 さゆり</p> <p>中野 弘子 篠塚 和弘 島田 直幸 市川 紀恵</p> <p>野元 麻美 石崎 清子 小坂 和弘 飯塚 佳奈子</p> <p>師橋 千晴 小谷 奈保子 幸 瑞 緒形 富雄</p> <p>山下 謙介</p>
5 行政 (事務局)	<p>子ども政策部長 近藤 さやか</p> <p>子ども政策部調整担当部長・子ども家庭課長 清水 利昭</p> <p>児童青少年課長 梶田 秀和</p> <p>子ども育成課長 萩原 潤一</p> <p>保育支援課長 竹内 里奈</p> <p>子育て支援課長 嶋末 和代</p> <p>包括支援担当課長 戸田 陽子</p> <p>子ども家庭支援センター担当課長 杉山 静</p> <p>東多世代交流センター担当課長 小林 大祐</p> <p>西多世代交流センター担当課長 荻野 るみ</p> <p>南浦東保育園担当課長 瀬之口 和美</p> <p>下連雀保育園担当課長 西海 雅子</p> <p>健康福祉部障がい者支援課障がい者相談支援担当課長 香川 稚子</p> <p>教育部調整担当部長 寺田 真理子</p> <p>教育部学務課長 久保田 実</p> <p>教育部指導課長 福島 健明</p> <p>教育部地域学校協働課長 越 政樹</p> <p>子ども家庭課 加藤 太一 山岸 愛子 高橋 陽子 巻田 圭祐</p> <p>児童青少年課 佐藤 善彦 和田 麻子 中島 寛人</p> <p>子ども育成課 波照間 丈 野島 祥子</p> <p>子育て支援課 松崎 和子 三木 香織</p>
6 会議の公開 ・非公開	公開
7 傍聴人数	4人

## 1 開会（午後6時30分）

## 2 議事

### 【事務局から子ども誰でも通園事業実施に係る事項について説明】

【会長】 ありがとうございます。

今、事務局のほうから、実施する子ども誰でも通園事業についての説明をいただきました。数値もありますし、資料も詳しくありますので、質疑をしたいと思います。これは協議なので、承認をしなければいけないので、質問がありましたらお尋ねいただければと思いますけれども、いかがでしょうか。

【委員】 今のところ、もちろん見込みというところで、定期的な利用の頻度、かなりフルで毎日というようなイメージが多いのか、それとも週に数回何時間かというような予測なのかという辺りを教えていただけたらと思います。

【子ども政策部調整担当部長・子ども家庭課長】 今お申込みいただいているところでは、ほとんどのところは週に1日程度の設定が多いです。1回から3回程度のところでの申請となっております。

【会長】 ありがとうございます。

私からいいですか。今、量の見込みで、計算式が、0.5とか0.1となっておりますがパーセントと読めばいいですか。それから、必要定員数で、一応0～1歳が出ていますけど、今回申請の幼稚園の全て、2歳児。1歳のところが1か所ありますが、基本0歳はいないということになります。これは今後ニーズの様子を見てにはなるかと思うんですけど、どうするのか。今、これだと、見込みが21人・25人出ていても結局ないということになりますから、どうするのかなと、どのように考えているのかということが2つ目。

3つ目に、今の多様な他者の事業、東京都の事業でやっていらっしゃる部分が重なっているのがとても多いと思うので、時間数も長くやられている方もいるのかもしれないですけど、多様な他者の利用者が現状の三鷹にどのぐらいいて、どういう傾向があるのか、何時間ぐらいでどのぐらい使っているのかとか、その辺も教えてもらってもいいですか。

【子ども政策部調整担当部長・子ども家庭課長】 まず、数字のところは、これは単純に割った数字ですので、パーセンテージで言うと50%です。上のところは、10%、10%という

ことになります。

それから、0歳児等の確保の部分でございますけれども、民間さんにやっていただくというところで、働きかけをお願いというような形はできるかもしれませんが、それぞれの御事情があるということで、なかなか強制的にお願いすることもできませんので、そのところは実施をしていく中で、ニーズも踏まえた上で協議させていただきながらということになるかと思えます。

それから、傾向ですが、今年多様な他者で実施をされているのは、実績としては118人の方が利用されています。全体では220人程度の定員を今年は確保しておりますけれども、大体その半分ぐらいの方の御利用となっているところで、通われている日数は週に1回程度というような、それも数時間ですね。例えば午前の数時間とか午後の数時間というような設定がされています。

【山本会長】 ありがとうございます。そうすると、0～1歳については様子を見てということになると思いますが、その他のいろいろな「ひろば」であったりとか、短時間利用のサービスは一時保育も含めてありますので、そういうところで吸収できるのであれば、今幼稚園さんを中心とした形での三鷹方式というか、そういうところでやっというところですね。ありがとうございます。

そして、これがパーセントというのは、何ってよかったです。

それから、多様な他者についてもこのぐらいだということで、時間も週に1日程度ということで、補助額とすると月160時間を超えるところまではあるというところで考えると、これだとほぼフルで1日8時間という計算になっちゃうので、もしこれで利用する方が出てくるということになるととんでもないかなというふうに思っていたんですけど、そこはあまりないのかなというところですね。ありがとうございました。

【委員】 お伺いしたいんですけども、一時預かりとの差というか、その辺りはどういう使い分けなんですか。

【子ども政策部調整担当部長・子ども家庭課長】 一時預かりは、これは国がそういうふうに説明しているんですけども、基本的に御家庭の事情によってお使いになる制度です。ですから、保護者の方の都合に合わせてということになります。

一方で、誰でも通園制度は、子どもが御家庭以外の人、お友達であったり先生であったりという普段と異なるところでよりよい成長に資する刺激を受けるというところで、趣旨が子どものためなのか、預ける親のほうの都合なのかというところが一つ違います。ただ、預け

ようと思った場合に、これを一時預かり代わりに使おうとされた場合は、曜日は固定されてしまうわけですが、使えないわけではないですね。

【委員】 固定されるというのは、園によって曜日が違うんですか。この幼稚園は月水金しかやりませんか、そういうようなことを想定していらっしゃる。じゃ、園に預ければただで、一時預かりになれば時間1,000円とかを取られるという話、親の都合であればお金を払うということなんでしょうか。そこは使い分けの判断が、利用者も受け入れ側も難しいですね。

【会長】 ありがとうございます。実際の現場と国が考えている制度、その辺の本当の目的的部分がぴったり合っているわけではないというのは正直なところかなと思うんですけど、一番は家庭で抱え込まずに子どもがたくさん多様なところで経験を積めるという機会を誰にでもあげるべきだということ、それが子どもの成長に必要なところからスタートしているもの。だから、本来であれば今の制度をもう一回見直しながらもっとすっきりとした形につくり変えるべきかなと私は個人的には思いますけど、そういうことをせずに今あるものを使いながら広げるという形で今始まってしまっているという状況になります。

【委員】 質問というよりも、私は当事者で、三鷹中原幼稚園の園長をやっているんで、誰でも通園制度の実施園の一つに入っているんですけど、誰でも通園制度とかのルールが実はまだ決まっていないんですね。三鷹市としてこうやりますよというのも決まり切っていないんですけど、1月中に申請をしないと申請ができないという事情があるので、うちの幼稚園なんかは人手がちゃんと確保できるかという課題を抱えているし、もしかしたらほかの幼稚園さんでも、この表に書いてあるからといってみんながやれるかというところでもないぞということを私のほうから申し伝えておきたいなと思っております。書いてあったのにやらないじゃないですかとなっちゃうので、そういうこともあるということ、決まっていなくても私たちは決断しなきゃいけないということだったりするので、それを申し伝えておけたらなというふうに思っております。

【会長】 ありがとうございます。そうなんですよ。三鷹だけじゃなくて、割と国のほうがすごく強く4月までにやりなさいということをやっているんで、各自治体の方たちもみんな困っているいろいろ工夫している段階なので、きっと一緒に考えてやっていってくださると思いますし、きっと市民の方もやっていないじゃないかなんて言わないと思いますので、みんなで支えていきたいと思っております。

そのほか、いかがでしょうか。何か質問とか疑問、大丈夫でしょうか。

**【委員】** 今のことなんですけれども、制度が、一般型と、いろいろとあって、一般型の中でも、今回三鷹市さんが行っているのは、専用部屋というようなことでよろしいですね。そうになると、保育園でもそうなんです、要するにまず専用の部屋がないとできない。そうなってくると、非常に狭まったところでしかできないのかなと。よほど広く空いているところがないとできないんじゃないかなと思っっているんですよ。今幼稚園さんだけしか手を挙げていないというのは、もしかしたらその辺もあるのかなと。保育園さんのほうでは、部屋を空けられない。もしくは、今おっしゃったように、保育士さんが今いない中で、これ専用を集めなくちゃいけない、何人来るかも分からないと。専用を集めるそのはざまが難しく、普通の定員が未充足しているところにも入れられる方もあるんですね。そっちのほうで、確かにいろんな書き物であるとか、ハードルは高いんですけど、先ほどの趣旨で、子どもの触れ合いとか、そういうものでいくと、同じ年齢のお子さんと触れ合うというのはそっちのほうももっといいのかなと思うんですけど、一般型の専用ということにした根拠というのは何かあるんでしょうか。

**【子ども政策部調整担当部長・子ども家庭課長】** まず、通いたいという方が継続して通える、そもそも制度として複数月使用できるということを前提にしろということで、これは東京都のほうの事業でのくくりで決まっています。これをもし空きの部分でやる形にしてしまったら、保育園に入りたい人が来たら追い出されちゃうことになっちゃうんですね。そうすると、園の状況で、せっかく定期的に通おうと思って行ったのに、入ってくる子がいますからもう駄目ですと、それは定期的というのをきちんと確保することにならないと思います。

それから保育園は、ほぼ定員が埋まってしまっていて、部屋を別に確保するのは当然考えられないんですけど、空いているところに入れることすらなかなか難しいので、まずは三鷹市はきちんと専用のお部屋を確保して、行きたいお子さんが安定した状態で通っていただけるということを考えてこういう形で決めたところです。

**【会長】** そのほかはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、今御説明がありましたとおり、誰でも通園事業の実施については、子ども・子育て会議のほうで意見を聴取するという過程を踏みましたので、こちらの決定につきましては承認というか、取ったということにさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

続きまして、報告事項に参ります。事務局よりまとめて報告をお願いいたします。

## 【事務局から報告事項(1)～(6)について説明】

【会長】 ありがとうございます。たくさんありましたけれども、事務局から説明をしていただきました。

資料2の所掌の事項から、戻っていただいて結構ですので、何か気になったところがありましたら、項目ずつお聞きしませんので、私はこれを聞きたいというのがあったらそこで言っていただけだと思います。いかがでしょうか。分かりにくいとか、もう一回説明してほしいとか、そういうのももちろん構いませんので。

じゃ、取りあえず私から。資料の6の認可保育施設の利用定員について今御説明いただいて、去年よりも1歳児の申込みが増えたというところで言われましたけれども、閉園が出ていたりいろいろしていますが、今のところニーズとしては充足というか、こちら側から利用している分については足りているという状況で大丈夫ですかね。

【子ども育成課長】 現在、選考途中のため、まだ正式な数というのはお伝えできませんが、1歳児の申込みがここまで増えるというのは想定していなかったところです。今の時点では充足できるかどうかというのは難しいかなと思っています。

【会長】 そうすると、久しぶりに待機児童が出るかもしれないということですね。1歳児のところ、もしかしたら、ニーズが合わなければ、行きたいところと空いているところが別だということはあると思いますので。

【子ども育成課長】 これから選考の中で、内定が出なかった家庭がどういった施設等を希望されるのか確認した上で丁寧に対応していく予定です。今の時点で待機児童が出るかどうかについては、出ないとは言い切れないような状況かなと思っています。

【会長】 もし出たときは、定期利用とか、いろんな違う方法を考えるということですかね。分かりました。ありがとうございます。

【委員】 資料4の5歳児健康診査実施概要について質問させていただきたいんですけど、「健診の結果を踏まえて、就学を見据えた適切な支援につなげていく」とありまして、私たち支援者は5歳児健診の意義みたいなところで別に研修を受けていたりするので、その中で、気軽に相談してもらえるような窓口づくりをするというところで、すごく保護者にとってプラスになるようなことなんだというのは認識しているんです。けれども、具体的に相談をした後、保護者の方が相談を受けてくれるんですが、実際に発達支援に進みたいとか、より専門的な支援を受けたいというふうになったときに、三鷹市としてどのようなメニューであったり道筋があるのかということをお伺いしたいです。三鷹市さんとして、6歳になると

発達支援センターのほうでもいわゆるプログラムがなくなるみたいなどころもあると思うので、5歳児健診を受けてどうやって継続的に就学に向けて支援を続けていくのか、専門家の支援をしっかりと入れていくのかというところが、どのような計画であったり方向性があるのかどうかお伺いできたらと思います。

**【子ども政策部調整担当部長・子ども家庭課長】** この健診の後、御家庭の御希望にもよるわけですが、基本的に御意向を伺いながら、一つは子ども発達支援センターのほうで「にじいろプログラム」というものがございまして、それについて、この健診の受診で課題があると判断された方のためのプログラムを今のプログラムに拡充するような形を一つは考えています。

それから、従来型の療育に相当するような部分は市では実施しておりませんから、その部分については民間さんで、受けたい療育の内容によってどこを御利用されるのがよろしいのかということをおアドバイスさせていただくというのが中心になろうかと思っています。

**【委員】** 今の内容に関わることなんですけれども、地域の保育園・幼稚園やかかりつけ医とも連携を図るといふふうにももちろん書いてあるんですけれども、実際どんな形で行われているのかなど。実は、最近、割とギフテッドとか、いろいろ言葉ばかりが飛び交って、保護者の人たちがそれで血迷ってしまうような状況というのも聞いたりするんですね。それで、よくよく話を聞いてみると、悪気はないんだけど園長先生のほうでおたくのお子さんはギフテッドだからというような形でお話をしてしまうことだというような話も聞きます。そういう意味では、現場の先生方もそういう意味での専門家ではないので、どうやってその辺りを伝えていくかというのは、地域や市などとの連携を図りながら、かかりつけ医なども本当に連携を図って支えていかなきゃいけないんだなということをお頃のいろんな事例を聞くたびに考えるところがあります。

すごく抽象的な質問で申し訳ないんですけど、どんな形で保育園・幼稚園現場と連携を図っているのかという辺り、簡単でいいので教えていただけたらと思います。

**【子ども政策部調整担当部長・子ども家庭課長】** 今、子ども発達支援センター、民間の療育が必要な方というのは私どものところに相談にお見えになったり、あるいは障がい者支援のほうを窓口として御相談された結果、例えば受給者証を受けて御利用になるというような流れが基本的にあります。

中には、それぞれ、例えば保育園とか幼稚園から、お子さんはなかなか集団での生活が今難しいような状況にありますということで子ども発達支援センターのほうに一度行ってみ

てくださいというふうにストレートに言われて来る方もいらっしゃるかもしれませんが、それをなかなかうまく伝えられないので何か子ども発達支援センターのほうから働きかけていただけないかというようなお声もあります。ですが、基本的には、私どもが働きかけができるのは、例えば一つは、今回始める5歳児の健診もそうですけど、3・4か月、6・7か月、9・10か月、1歳半、3歳というような健診のところで何らか課題があるなというときにはお声がけをさせていただいて受診をお勧めすることもありますし、私どものところで一度検査をしてみませんかというようなお話をさせていただいたりというのが基本的な流れになります。

幼稚園・保育園から御相談があったときには、巡回発達相談という形で、私どもの職員が現場を見に行き、このお子さんはこういうところに配慮をして保育を施していく必要がありますねというアドバイスをさせていただく場合もありますし、親御さんのほうからの発信でうちの子どもはぜひ園のほうで実際に発達支援のために加配というか、子ども発達支援センターのほうから職員が行き、実際にほかの集団の中でそのお子さんにだけ付き添うような形で発達支援をさせていただくというような形を取っているところです。

**【委員】** ありがとうございます。すみません、私の抽象的な質問に丁寧にお答えいただいて。でも、御家庭はもちろんですけれども、困っている幼稚園や保育園側の声などにもぜひ耳を傾けていただけたらと願っております。ありがとうございます。

**【会長】** それでは、大丈夫でしょうか。何かまだ質問とかはございますか。よろしいですか。

では、時間の予定もありますので、今日16人御出席いただいておりますので、今日が最後なので、3分だとちょっと多いので2分弱で挨拶をお願いできると助かります。もし、今日と関係する質問なんかもあるようでしたらコメントも入れていただいて構いませんし、この会議に対する思いとか、今後の期待とか、そういうものも言っていただいても結構です。時間が短くて申し訳ないですが、よろしく願います。

**【委員】** 医師会から来ている段谷と言います。なかなか意見することもなかったんですけど、今回ちょうど5歳児健診も始まりますので、皆さんいろいろ不安はあるかと思うんですが、子どもの育ちって多岐にわたっていて、私も小児科をやっていますけど、だんだん子どもの特性というの、おうちの方とか保育園・幼稚園でも認識されるようになってきた。そこからずっと見ていくと、登校の問題とか、最近の自傷の問題とか、全部つながっているなというのは、皆さんと違って0歳から基本的には15歳まで見ていると感ずるので、やっぱりポイントポイントでつなげて見ていくしかないと思っています。5歳というのはいろんな

マイルストーンがあるときなので、そこをしっかりと見て、フォローの問題は常に私たちも考えてはいるんですけど、やはりこの時代、正直5歳児健診って医者抜きでもいいんじゃないかと私は思っているぐらいで、多職種でその家庭、その子を支えていける方向を、各市町村本当に独自でやっている健診なので、そこを三鷹市で積み上げて、子どもとお父さん、お母さんが皆さん楽しく集団に通って、その子に合った発達ができるように支えていけたらなと思っています。

【委員】 小学生の保護者代表といますか、学童の先生からお声がけいただきまして出席させていただいておりました三隅と申します。運営に携わる方がこんなにいらっしゃるんだなということと、あと丁寧にこういう場で子どもに関する政策を練っていただいているんだなということに感銘を受けまして、どうもありがとうございました。なかなかお力になれず申し訳ありませんでした。ありがとうございました。

【委員】 幼稚園代表として来させていただいている六車と申します。同じような感じで、たくさんの方に子どもたちのことを考えてもらっているんだなということが分かり、私自身とてもすごいところに来てしまっているんだなと思って、いい経験をさせていただきできました。

自分の子どもは高校3年生ですけど、もっと上のお兄ちゃんたちもいて、そっちのフォローももうちょっと考えてもいいかなと。今は小さい子が対象のものが結構多かったので、高校生とか大学生とかももう少し見据えてもいいかなともちょっと思ったりしました。とてもいい経験になりました。ありがとうございました。

【委員】 三鷹市心身障害者（児）親の会というところから、保護者として来ました。実際、重度の身体の障害の子どもと、そして発達障害の子どもを育ててまいりまして、重度の身体障害の子どもというのは相談する場所って明確で、障がい者の担当部署につなげればいいと思うんですけども、発達障がいの子どもって、見つけて親がおかしいと思っても、幼稚園でも先生もおかしいと思っても、病院へ連れていくといい子ちゃんをしたりして、発見しづらいという。そういうのを上手に拾い上げるシステムというのが出来上がっていくといいなと思って今日の会議も参加させていただきました。これからもどうぞよろしく願い申し上げます。

【委員】 私立認可保育園園長会のほうから来ました篠塚と申します。皆さん、1年間どうもお疲れさまでした。ありがとうございました。

私のほうからですと、自分が培ってきた保育という目線だけではなく、各分野の皆さんの

目線というので、新しい見方がいろいろとあるんだなというのが非常に勉強になりました。ここに出させていただいて、私は、1つだけじゃなくて本当にいろんな見方があるということで、新しい発見であったりとか、それがまた自分の保育にもつながっていったような気がしております。どうもありがとうございました。

【委員】 三鷹市の私立幼稚園協会から参りました島田です。いろんな御意見が出ていて、それがすごく勉強になったなということと、あとは、やはり難しいのが現場の課題だったりとか、予算の関係があったりとか、国がそもそも腰を上げなかったりとかでなかなか難しい、歯がゆいようなところもあり、例えばフィンランドとかだと国民全員が支援を受けるのが当たり前という一般支援というのがあって、さらにその下に30%の人が受ける強化支援がある、そのさらに下に10%ぐらいの人が受ける特別支援という仕組みがあるんですね。なので、社会として全員に発達特性があって、発達課題があって、みんなが支援を受けるのが当たり前なんだよねというインクルーシブな社会づくりみたいなものをフィンランドは先進でやっているんですけども、もちろん日本も道半ばだとは思いますが、どうやってそこに向かうのに自分が少しでも力を発揮できるのかなと思ってこの子ども・子育て会議に自分なりに参加してきたところがありました。

また今後5歳児健診も始まって、三鷹市さんとしても親御さんたちを、子どもたちを支えていくというのをスタートしてくださるので、引き続き力になれたらなと思っております。ありがとうございました。

【委員】 三鷹市の学童保育所・地域子どもクラブのほうから参りました市川と申します。学童保育所は今、東京都のほうでも認証学童なども始まりまして、関心が高まってきているところかなと思っております。三鷹市さんですと、学校3部制の2部、放課後の部分ですね、安心して子どもたちが学習活動や様々なチャレンジができるように、学童保育所でも引き続き取り組んでいけたらなと思っております。

また、会議に参加させていただきまして、5歳児健診ということで、今実は学童の現場でも配慮の必要なお子さんが増えてきておりまして、現場の職員が対応で苦慮しているところもございます。今回の5歳児健診によって、就学を見据えた適切な支援につながっていったらなという形で、私どもはとても期待しております。とても勉強になりました。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

【委員】 助産師会の野元です。ありがとうございました。産後ケアに関して、使える施設がどんどん増えてきて、利用されているお母さんからとてもよかったという声をよく聞き

ます。ただ、本当は使いたかったけれども期間が終わっていて結局一回も使えないまま終わった人と、7回きっちり使い切る方と、本当にいろんな方がいらっしゃるの、もっとまだまだ使いやすいような施設がどんどん増えてくるといいなと思います。

あと、最近お父さんの育児参加も進んでいるので、頑張り過ぎてちょっと鬱じゃないですけど、仕事復帰でやっていけるのかと追い込まれているお父さんもよく見かけるので、そういった方にも、お母さんが産後ケアを使っているときに自分のリフレッシュに行くという声も聞くので、産後ケアはお母さんだけじゃなくてお父さんのためにもなっているんだなというのを最近感じております。

あと、子どもの居場所にもあった子どもの意見を聞くというのはとっても大事だなと思っていて、うちは西児童館が近いのでよく行くんですけど、何かのイベントをする際に、壁にどんなイベントをしたいかというのを子どもたちが自由に貼っているのを見ると、大人が考えもつかないような面白い企画が貼ってあるなというのをよく見ます。ワークショップ以外にも、ふだん子どもが放課後集っているところ、コミセンだったりとか、いろんなところにそういった意見を自由に貼れる場所を持ってもらうといろいろ集まっていいのかなというふうに個人的に思いました。どうもありがとうございました。

**【委員】** 私は、民生委員としてこちらのほうに参加させていただいていました。本当に多くのことを学ばせていただいてありがとうございました。

私事にはなるんですけども、おかげさまでこの4月から孫の1人が市内の保育園でお世話になることが決まりました、うれしく思っているんですけども、三鷹の子育て政策というんですか、その恩恵を受けることになります。これからも、私、実は10歳のときから三鷹に住んでおりますので、60年以上三鷹に住んでおりまして、孫にもつながっていくかもしれないので、これからも「いつまでも住みたいまち 三鷹」というようなことで、微力ではありますがけれども一市民として支える、そして見守っていきたいというふうに今思っております。これからもどうぞよろしく願いいたします。本日もありがとうございました。

**【委員】** 小学校の校長を代表しまして参加させていただきました小坂でございます。今皆さんのお話を伺っていて、例えば5歳児健診のフォロー体制ということ言えば、発達支援に関して、保育園、幼稚園、それから小学校、中学校、今度は子どもの居場所ということ考えると高校生まで連続した子どもの支援と、連続した子育て支援という、ここがキーワードになってくるのかなと考えさせていただきました。

そのほか、子ども・子育て会議の所掌事項が若者施策に関することって、今小学校でも中

学校でも不登校の問題、学校不適應の問題が、先ほどもちょっと話題に出ておりましたけれども、やはり社会人にかけてもひきこもりの問題があったりとか、そこへどう支援を働きかけていくのかなといったところ。網羅的になるのではなくて、できるところから1つ1つ取り組んで、それぞれの1人の子どもの成長を見たときに、その子の育ちがうまくいくような支援をみんなで知恵を出し合っていけるといいのかなと思いました。

片や、学校の教育のサイドにおりますので、教育委員会のほうでは学校3部制の充実ということを考えています。コミュニティ・スクールを中心として、スクール・コミュニティの充実をとということで、子どもたちの意見を聞いたり、子どもたちの権利を守ったり、子どもたちが選択できる場面を増やしたり、そういうことはたくさんやっているの、先ほど児童館のほうに掲示物があったというお話もありましたけど、そういったところをうまくつなぎ合わせて、制度づくりをやっていく中でうまい運用方法へつなげていく、こういうことを今後また期待しております。どうもありがとうございました。

**【委員】** ありがとうございます。三鷹市PTA連合会から派遣されて参加していました飯塚です。2年間参加させていただいて、私は子ども6人を三鷹市でずっと子育てしているんですけど、三鷹市から出たくないなという、すごく子育てしやすく過ごしやすい三鷹市なので、大好きなので、夜な夜なこうやってすごい方々が三鷹市の子育てに関して意見を交換されているんな制度が決まっていっているんだなということを知ることができて、すごくいい経験になりました。

子どもの居場所に関することで、保護者の方が共働きで、学校に預けたら預けっ放し、地域に預けっ放しというところがよく見られるので、学校3部制においていろんな保護者にこの在り方を知っていただいて、学校と地域と家庭が一緒になっていろんな制度を考えていただければいいなと思っております。それに関して、PTA連合会もいろんなところで活動できたらいいなと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひします。ありがとうございました。

**【委員】** ありがとうございます。私は、地域の立場からこの会議に今は出ているんですけども、地域子どもクラブという三鷹市でやっている中の一つの小学校の代表として先には出ていました。両方の立場として出ているのに、自分が年齢を重ねて、自分の子どもも巣立って、今は孫がいるんですけども、大好きな三鷹に住んでほしかったんですが、なかなか遠いところに、残念ながら私の場合は。今度4月から保育園に入るんですけども、そういう家庭環境のことも皆さんと一緒に考えていながら、その子の成長過程、よその子はすごく早く成長するような感じにはなるんですけども、若者支援というところまで続けて、

系統立てて、いろいろなところがちぐはぐにならないような、そういう環境づくりが三鷹市だったらできるのかなというのもすごく感じております。

その中で、お子さんたち、それぞれ個性あふれる子たちが放課後も、学校2部の部分に携わっているのでいらっしゃるんですけども、学童保育所と地域子どもクラブというのは似て非なるものであって、家庭環境とか、親が選択すべきというところと、子どもが選んでそこに参加するという、誰がどっちを選ぶかというところから行くところが決まる。その中でも、子どもたちの交流というところは、学童保育所に行っている子は両方使えるんだけど、地域子どもクラブに入っている子は学童には行けないわけで、そうしたときの交流が、地域子どもクラブでだったら、学童を休んで、放課後お友達と、おうちではなくてその場所を使って遊べるという、そういうような考え方もできて、学童に行っているから学童にずっと行かなきゃいけないわけではなく、そこも選択肢。そして、保護者がきっちりと分かっている、学童保育の先生も今日はこっちで遊ぶんだなというのがちゃんと分かっているれば安心して過ごす場所も選べるというような選択肢が広がる、そういうようなことを大事にしながら、それは周りの人たちが連携を取れば可能なこと。なので、そういうことも、今度は若者というところまで継続していけたらすごくいい社会につながるんじゃないかなと思っていますので、ぜひ皆さんよろしくお願ひしたいと思います。今日はどうもありがとうございました。

**【委員】** NPO法人子育てコンビニにから来ておりました小谷と申します。2年間ありがとうございました。

私は、子ども1人、21歳になった息子がおりますが、三鷹市でずっと産んで育ててまいりました。ずっと子育て支援が年々変わっていくのを眺めていて、すごいな、三鷹市はどんどんよくなっていくな、どんどんお金をくれるのかな、百合子様々だかなと思ってみたりなんかもあるんですが、仕事で東京の他地域とか、それ以外の同じような子育て支援をしている人たちと話していると、三鷹市って割といいほうみたいです。よその町に比べると、動きも早いわ、こんな支援があるよと言ったら、うちはまだまだそれはやっていないよねと言われることも多くて、多分東京の中でも割と先取りしていろんなことに動いていらっしゃるのかなと思っていますので、三鷹でよかったなと思う反面、ふだん活動している中でどうしても取りこぼされている親子さんに出会うこともあって。自分から行かない親が悪いといえば悪いんですけども、さっきおっしゃってましたように市から行くことはなかなかないという現実の中で、どうしても制度の隙間から落ちていっちゃう人たちがいるのも確かなので、そう

いった方々につながれたら市のほうに着実におつなぎできるようにこれからも活動していきたいと思っていますのでよろしく願いいたします。ありがとうございました。

【委員】 市民枠で参加させていただきました幸と申します。私は、まだ子どももおりませんので、なかなか子育てというのは接点がそもそもなかったところで、今回機会をいただけて参加したんですけど、三鷹市の施策の全体像というのをたくさん拝見させていただいて、何となく分かった気がしていると同時に、皆さんが現場でどういった活動されているというところを一つずつ伺うところで、イメージできる範囲が少し広がったかなと、まだまだ分からないことが多いんですけど、とても将来のためにも貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。

【委員】 市民枠の緒方と申します。2年間ありがとうございました。

私は、4・5年前に旭川から越してきたんですけど、中1の子ども、当時小学校の子どもがいるんですが、どこの町がいいかと友達に聞いたら三鷹は子育てしやすいからいいよと言われて、三鷹を選んで転勤で引っ越してきたんですけど、そういう評判のある町が皆さんの議論とかでつくられているんだなというのを知って、大変いい機会をもらったなと思います。

ただ、これは爪痕を残そうとかではないんですけど、1個だけ気になったのが、最初の会議のときに、これは多分空気を読まない人じゃないと言えないと思うんですけど、市長さんか副市長さんが一生懸命一人一人に辞令を渡していた時間があつたと思うんですけど、せっかく貴重な時間を割いて皆さんいらっしゃるので、そこを簡略化して議論の時間に費やせるといいんじゃないのかなという、市民感覚でお伝えしておこうかなと思いました。でも、本当に貴重な機会をいただいて、これから安心して私も子育てを三鷹で続けていけるなと思いましたので、どうもありがとうございました。

【委員】 三鷹青年会議所より出向させていただいております山下と申します。2年間ありがとうございました。私にとって子育てというのはあんまり身近じゃなかったもので、本当に勉強になる会議を毎回受けさせていただいていたという感覚でした。

また、青年会議所といたしましても、社会の課題を解決することであつたり、地域をよくするということを目標にしてやっておりますし、また青少年育成事業というものをほぼ毎年やっておりますので、この会議を通じて学ばせていただいたことを会議所のほうに持ち帰らせていただいて共有することによって、よりよい事業がまた三鷹市さんとも協力してできればいいかなと思いますので、引き続き三鷹市をよりよくできるように一緒にやっていきたいと思っています。引き続きよろしく願いいたします。ありがとうございました。

【委員】 実践女子大学の井口です。子どもの保育・養育において、地域というのが本当に大事だということをこの子ども・子育て会議で教えていただいたと思っております。

保育者の要請も同じで、やはり地域というのが大切で、実践女子大学は日野市にあるんですけれども、日野市で子どもとともに学生も育てていただいております。ただ、やはり少子化の波というのは本当に大きくて、大学も安穩とはしておられず、実践女子大も渋谷と日野にキャンパスがあるんですが、2031年に渋谷に一本化するということがプレスリリースされました。本日も皆さんの話を聞いて、また地域というものを築き直しということで大変だななんていうことを考えている次第です。5年後、見違えるほどファッショナブルになった私がいるかもしれませんので、引き続きよろしく願いいたします。

【会長】 皆様、御協力ありがとうございます。時間内で終えていただいて、本当にすばらしいです。ありがとうございました。

私も一言ということも考えたんですけれども、ただすごくうれしかったのが、みんな三鷹がよかったと、旭川からわざわざ三鷹に来てくださるとは、私は実は三鷹市民ではないのですが、実は調布市の深大寺というところでずっと育っていきまして、実は当時貧乏だったので、公立中学に行っておりまして、三鷹はお金持ちと思っていた。三鷹公会堂をいつもお借りして、当時調布グリーンホールがなかったんで、三鷹公会堂でやって、三鷹の友達はいないなと思っていた、ずっと都営団地、中原で、ずっと通っておりまして、非常に三鷹は近いところで、御縁がありまして30年ぐらいつと、もう30年になりましたか、三鷹に関わることになったので、皆さんが三鷹がいいと言ってくださると、自分の仕事ではないですけどうれしいなと思いつながら関わらせていただきました。

今回も皆さんに御協力いただいて、いろいろな意見もいただいて、そして、三鷹がいいのは、皆さん方が言ってくださったことを市の方が、私も結構プレッシャーをかけているかもしれないですけど、一生懸命受け取ってくださって変えようとしてくださっているなと思っています。そういった姿勢が、両輪、市民と行政が一緒になって三鷹をよくしようという思いがある委員会だと思っていますので、本当に楽しい、いつも学ばせていただいている場となりました。今後もまた三鷹に関わることがきっとあると思いますので、またよろしく願いいたします。ありがとうございました。

それでは、御意見がなければ事務局のほうにお返ししたいと思います、特にはございませんか。

お願いいたします。

【子ども政策部調整担当部長・子ども家庭課長】 委員の皆様、本当にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

本日の会議で、現委員の皆様の任期中の最後の会議となったところでございます。これまでの皆様の御活躍に、改めまして御礼申し上げます。どうもありがとうございました。

新たな委員の選出についてでございますけれども、こちらについては別途御連絡させていただきますので、どうぞその節はよろしくお願いいたします。

なお、次回の開催は、新たな委員の選出後、新しい委員の皆様にお集まりいただいて、令和8年5月頃の開催ということで予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

私からは以上です。

【山本会長】 ありがとうございました。

では、こちらをもちまして令和7年度第3回三鷹市子ども・子育て会議を終了させていただきます。本日は、お忙しい中最後まで御参加いただきありがとうございました。雪が降るとか寒くなるとかと言っておりますので、お気をつけてお帰りくださいませ。お疲れさまでした。